

## 特集「クラウド ITO」の発行に寄せて

齊藤晴伸

デジタル・トランスフォーメーション（DX）により各業種で IT サービス開発競争が活発化している。DX 時代のシステムを支える ICT インフラとして日本においても本格的にクラウドが定着し、迅速でかつ競争力のある ICT インフラやプラットフォームの提供に加え、効率的な運用が求められるようになった。本特集号は DX や本格的なクラウド時代に突入し、その中で ICT インフラのあるべき姿や生産性を上げるためのチャレンジングな運用サービスを取り上げたものである。

日本ユニシスグループは長年に渡りシステム運用の領域でお客様より高い評価をいただいていた。それは DX、クラウド時代においても変わらず、本格的なクラウド利用を想定し、いち早くクラウド ITO（IT アウトソーシング）として従来の運用マネジメント・サービスを進化させてきた。

クラウド ITO として特に留意しているのが DevOps の考え方である。従来の ICT インフラはある程度運用と切り離れた考え方でも対応ができた。しかしながら最新の ICT インフラはあらゆるところで DevOps の考えが踏襲されており、機器やソフトウェアを選定した時点で運用までのイメージを描かなければならない。

お客様は様々なサービサーが提供するサービスを最適な組み合わせで活用することを望まれているが、どういう組み合わせでサービスを利用したらよいか悩まれている。また、複数のサービスを利用することにより運用が複雑化することを危惧している。日本ユニシスグループのクラウド ITO の考え方はサービスや ICT インフラを最適な組み合わせで提供し、利便性を高め、セキュリティを高め、効率的な運用を可能とすることである。

少子高齢化が進み人材難が続く中、ICT インフラに関わる要員も減っていくことが想定される。加えて複雑化した ICT インフラの維持管理という仕事も重荷となっている。エッジ・コンピューティングが普及していくとその物理的担当範囲まで大きくなってしまう。日本ユニシスグループはそうしたお客様の不安を少しでも解消すべくクラウド ITO に注力し、そのサービス力を磨いていかなければならない。

本特集号ではクラウドサービスの選定方法からクラウドに必要なセキュリティ対策、クラウドにおける運用サービス基盤の重要性、クラウドにおけるネットワーク基盤の在り方、運用現場における RPA ツールの活用等を紹介しているが、どれもこれからの時代においては重要な位置づけと考えている。最後に本特集号が運用管理に関わる方々、ICT インフラの企画開発の方々の一助となれば幸いである。

（ユニアデックス株式会社 執行役員）